

令和2年第6回小坂町議会（定例会）議事日程 第2号

令和2年9月10日（木） 午前10時開議

◎ 一 般 質 問

(1) 5番 菅 原 明 雅 君

(2) 8番 鹿 兒 島 巖 君

(3) 6番 秋 元 英 俊 君

(4) 3番 本 田 佳 子 君

令和 2 年 9 月 9 日 招 集

第 6 回小坂町議会（定例会）

発 言 通 告 書

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	5	菅原 明雅	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
1. 新型コロナウイルス感染症による医療機関、介護施設等への支援について		1. 国は「令和2年度新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金（医療分）の交付」等の医療機関・介護施設等への支援策を講じていますが、その内容と本町においての国からの支援策の受け入れ状況等をお教え願いたい。 2. 町独自の医療機関（小坂町診療所）への支援策の準備はあるのか、お聞きしたい。 全国的に新型コロナウイルスの影響で患者が減り医療機関の経営難が懸念されています。例年寒い季節に向かうと風邪が流行し医療機関に利用者は増加しますが、本年度は新型コロナウイルスの感染を恐れ患者数が激減すると予想されます。一方医療現場の医師や看護師をはじめとする医療スタッフは、インフルエンザとの見分けが難しいなど新型コロナウイルス感染の恐怖にさらされることとなります。一生懸命危険を顧みず頑張っている者が、給料やボーナス等の収入が減ることはあってはならないことだと考えます。国も支援に乗り出すでしょうが、町独自の支援策も必要と考えます。町に唯一の診療所を支援することは「安心安全の町」を目指す観点からも重要な施策と考えますが、町当局のご意見をお聞かせ願いたい。		
2. 「十和田湖再生プロジェクト」の設立について（提言）		1. 和井内地区にできる「道の駅」は、「国立公園満喫プロジェクト」（2016～2020）によって建設され道路も造られつつあります。町の真価が問われるのは、いかにそのソフト面を充実させ、十和田湖地区再生に繋げるかにあります。建物は建っても、と懸念する声も聞かれます。十和田湖地区再生のためには、「道の駅」を拠点とする総合的な再生計画（仮称「十和田湖再生プロジェクト」）が必要であると考えます。以下の提言に対する町当局の意見をお聞かせ願いたい。 ○ 「秋田犬ツーリズム」や「十和田奥入瀬観光機構」の応援を得、小坂町がイニシアチブを取って十和田市や大館市・鹿角市と連携し、秋田県（必要によっては青森県）		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	5	菅 原 明 雅	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容) の観光振興課を動かし、国の観光庁や文化庁に働きかけ、計画の推進と財源の確保に尽力する。 ○ 内容については、地元の方々の要望やプロジェクト参加者等の意見を聞き、大所高所から検討集約し成案を作成する。 ○ 今のところいただいた意見要望を集約し、「たたき台」として列記します。 ・「道の駅」に秋田犬を置き、「秋田犬のいる国立公園」として全国世界に発信していく。(個人的な協力があったよい。) ・十和田湖の恩人「和井内貞行」業績コーナー(遺品、写真、文書、教科書、DVD、動画等)を設け、貞行氏カツ夫人の銅像も(ふるさと納税等の寄付で)建てる。(←鹿角市先人顕彰館との連携) ・遺跡としての「和井内孵化場」を整備し観光につなげる。 ・栈橋を改築する。(←釣り客の安全、大災害で国道が閉鎖された場合の防災の観点からも必要。) ・ボートやカヌー等を置いて、滞留の場とする。 ・ヒメマスの孵化場への遡上は生命力があり、教材・観光資源となりうる。(←一部でよいのでアクリル等で見える化できれば効果大) ・財源が準備できれば、水陸両用バスを置き、西湖畔の観光の活性化に役立てる。 ・「道の駅」には、住民のための日用品を置く一方、ベーカリー(アップルパイ)など名物になる産物を準備する。 ・外輪山登山道、西湖畔遊歩道を整備し、滞在型の観光客に満足のいく観光コースを提供していく。(←小坂町観光案内人協議会の協力) ・十和田湖振興に特化した地域おこし協力隊員(又はそれに準じた者)を採用し、動画等で十和田湖を全国世界に発信してもらう。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	5	菅 原 明 雅	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容) ・「十和田湖応援隊」を設立し、イベント時や忙しい時期に応援に出向く。(←小坂町観光案内人協議会、小坂まちづくり株式会社との連携) ・新コロナを逆手に、テレワークのＩＴ企業等の十和田湖地区への誘致に取り組む。十和田湖の小中学校跡地は想像力を必要とするクリエイター等には格好の場所。トップセールスで積極的に開拓していただきたい。(←「新コロナ」を地方の追い風とし移住を進める秋田県と連携、DOWA・ふるさと小坂会等からの情報収集) ＊あくまで「たたき台」です。町行政を中心に多くの者が知恵を出し合い、より良いものに仕上げ、「十和田湖地区再生」に繋がるものにしていただきたく、提言いたします。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
2	8	鹿兒島 巖	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. 国民健康保険税にか かわって 2. 高校生への就学支援 について 3. 学校給食の完全無償 化について		(発言の内容) 1. 国民健康保険税は、他の健康保険制度と比較して負担 が大きいことは周知の通りであり、これまでも負担の軽 減を求めてきたところであるが、重ねてその根拠を示し、 具体的な軽減施策を求める。 ① 均等割・平等割については他の健康保険制度にはな い特異なものであり、制度としての改善、特に均等割 は廃止していただきたい。 ② 町の施策の重点である子育て支援の施策の一つとし て捉え決断していただきたい。 2. 新型コロナウイルスにかかわる税の減免制度が制定さ れ、町も6月に全戸配布した国保こさか特集号にその概 要を掲載し周知を図ったところであるが。 ① これまでの申請状況はどうか。 ② 制度の周知度、認知度が低く、制度がわかりづらい との話を聞くが、折角の制度であり、周知方法等の改 善などを行い、町民の暮らしを支える取り組みの強化 が必要と考えるがどうか。 1. 鹿角小坂地区3高校の統合問題は花輪高校での統合と し、令和6年の開校を目指すとの決定となったところ であるが、この方針決定を機に、かねて求めてきた、ど この学校であっても、小坂町民の高校生の就学支援策の充 実・具体化を図るべきと考えるがどうか。 1. 学校給食の負担軽減については一昨年から半額無償化 とし、子育て支援策の充実として高い評価を受けている ところであるが、さらに制度の充実として完全無償化を はかっていただきたい。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
3	6	秋 元 英 俊	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨) 1. 消防団の強化及び充 実について 2. クマの出没について		(発言の内容) 1. 全国的にもその減少が表れている消防団員数の減少を 小坂町はどのようにとらえているのか。また加入促進は どのように行われているのか。 2. 総務省消防庁では消防団員の個性や技能を活かした消 防団制度の改革を期して機能別消防団制度を発していま すが、このことについて、どのように考えているのか。 (消防団員の加入促進にもつながると考えられますが。) 3. 小坂町地域防災計画の中で、自主防災組織等の育成が 掲げられています。自治会数からの組織率が36.36%と 秋田県の平均より低いことから、この対策をどのように 展開していくのか。 1. ここ数か月鹿角圏域では、クマの目撃情報が多く寄せ られています。人に危害を加える事例も発生する中で、 小坂町としては、注意を警察、消防と連携して促してい ますが、高齢者等に情報が行き届いていない場合などが あり、より積極的な対策が必要と考えますが、町はどの ように考えているのか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
4	3	本 田 佳 子	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨) 1. アフターコロナを見据えたデジタル化の推進について 2. 十和田湖地区・西湖畔が秋田県小坂町である認知度について		(発言の内容) 1. 小坂町の行政におけるデジタル化は現在、どこまで進んでいるか。 2. 国ではコロナ禍により、デジタル化を前倒しで進めていく方針をとりましたが、小坂町としてこれからどのようにして対応していくのか。 1. 十和田湖地区は青森県との県境にあり秋田県小坂町の十和田湖との認識をされにくい。そのための工夫はしているか。 2. 和井内エリアが秋田県小坂町西湖畔の玄関口となる予定ですが、標識や案内板等どのように配置し、どのように認知度を広げていくのか。		